

第 1 回青森県社会教育委員の会議 会議概要

日時	平成30年12月18日（火） 15:10～15:40
場所	青森県庁東棟 4階D会議室
出席者	<p>《 委員 》 敬称略 8名 清水目 明美 吉川 康久 永澤 正己 伏見 憲子 岩本 美和 工藤 貴子 松本 大 廣森 直子</p> <p>《 事務局 》 4名 渡部 靖之（生涯学習課長） 宮野 孝晶（生涯学習課 企画振興グループ 主任社会教育主事）他2名</p> <p>《 その他 》 2名 山本 洋史（総合社会教育センター教育活動支援課副課長） 三浦 博明（生涯学習課 地域連携推進グループ 主任社会教育主事）</p>
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 青森県社会教育委員について 3 議長、副議長選出 4 今後のスケジュールについて 5 閉 会
配 付 資 料	<p>次第 青森県社会教育委員名簿 座席図 資料1 青森県社会教育委員について 資料2 青森県社会教育委員の会議運営規定 資料3 会議スケジュール 資料4 青森県社会教育委員連絡協議会会則 <参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育法（関係部分抜粋） 2 青森県社会教育委員設置条例

1 開 会

(内容省略)

2 青 森 県 社 会 教 育 委 員 に つ い て

事務局より、青森県社会教育委員について説明。

3 議 長 、 副 議 長 選 出

事務局より、互選により議長、副議長を選出することを説明。

委員より、事務局案を求められたため、事務局案として松本大委員を議長に、吉川康久委員を副議長にしてはどうかと提案し、全委員の賛同を得て選出された。

【第34期青森県社会教育委員の会議】

議 長：松本 大（弘前大学教育学部 准教授）

副議長：吉川 康久（公益財団法人青森青年会議所 監事）

4 今 後 の ス ケ ジ ュ ー ル に つ い て

議長 それでは、皆様から自己紹介をしていただき、テーマでもある「社会教育施設の在り方」について考えることがあればお願いしたい。

- 地域コーディネーターとして活動している。地域住民が図書館に来て本を読む機会を増やしたいと思い、地域の特産物を使用した料理を図書館の外のスペースで販売したところ、盛況だった。図書館を地域のコミュニティ施設として開放することも必要であると思う。
- 家庭教育を勉強し始めてから挨拶の重要性を自覚している。
- 人づくり、つながりづくりとは何だろうといつも考えている。学生に対して教養について講義をすることが多いのだが、若者を一生懸命育てても、若者が働くことができる場所が地域に無ければ、若者は自分たちの生活のために地域の外に出てしまう。若者が生活できる環境をつくる必要がある。社会教育は、ボランティア活動で成立している部分がある。どのような方向性が出せるのかを検討していきたい。
- 地域の高齢者が小学校1年生に昔の遊びを教える機会をつくった。高齢者と児童のコミュニケーションが活発に図られたと思う。また、子ども会の活動では70名程の児童と保護者が集まり、クリスマス会を開いた。人づくり、つながりづくり及び地域づくりをこれからも実践していきたい。皆様の意見を参考にしながら今後の活動につなげていきたい。

- 私は社会教育主事の資格をもっているが実際に活用する機会がなかった。第29、30期の青森県社会教育委員を務めた経験がある。また、長きにわたってキャリア教育に携わってきた。それぞれの地域では、人づくりや地域のつながりづくりを頑張っている事業所や企業がある。自分自身のこれまでの活動を踏まえ、様々なことを考えて調べてみようと思っている。皆様と考えを出し合いながら新しいことを考えていければと思っている。
- 私が住んでいる自治体は、公民館の主管を教育委員会から首長部局に移してコミュニティセンターとした。このような流れの中で社会教育施設の在り方は難しいテーマだと感じる。各市町村に実際に訪問してそれぞれの市町村がもつ課題などの勉強会を開催したことがある。それぞれの市町村が抱える問題は様々あるため、あるべき姿と現実のギャップをどのように埋めていくのかが大事ではないか。
- 青森県社会教育委員を前期の1年だけ務めた。テーマは社会教育施設の在り方であるが、とてもシビアな話題であると思う。全ての施設は意義があって作られたとは思いますが、施設の運営に当たっては、予算に直結する問題であり、取捨選択を迫られるため、判断が難しいと思う。社会教育施設の存在意義を明確にすることが必要である。

議長 私の専門は社会教育・生涯学習である。現在は、社会教育施設が非常に厳しい状況に置かれている。昨年度から青森市と弘前市の公民館研修に関わっている。ただ、予算や勤務形態の問題があるため、公民館職員がなかなか研修に参加できない現状がある。施設の老朽化も大きな問題である。公民館などの社会教育施設は企画・運営の自由度が非常に高いと思うので、工夫次第で様々なことができることを提示できればと思っている。

- 事務局 重点審議事項2「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点としての社会教育施設の在り方について」を青森県社会教育委員の会議のテーマとした経緯を説明させていただきたい。近年、公民館、図書館及び博物館などの社会教育施設の所管を教育委員会に限定せず、首長部局に移すことも可能とするように国が動いている。博物館からスタートした話であり、博物館を観光の施設にして人を集めるために使用するなどの提案もある。社会教育施設の首長部局への移管を判断するのは各市町村教育委員会ではあるが、それぞれのメリット・デメリットがあると思う。県内の状況を踏まえ、実地調査を行い、メリット・デメリットを答申の中に盛り込んでいきたい。この中には指定管理の話も出てくると思う。教育委員会として社会教育主事が頑張っている事例などを他の地域に広めていきたい。

議長 首長部局移管を視野に入れた際の問題をメインテーマとする。管理・運営の仕方もあると考えていく必要がある。今後のスケジュールを事務局より説明していただきたい。

事務局より、今後のスケジュール及び青森県社会教育委員連絡協議会について説明。

5 閉会

(内容省略)